

道路事業の再評価説明資料

〔国道7号 しばた新発田拡幅〕

（一括審議）

令和3年9月

北陸地方整備局

目 次

1. 前回事業評価からの進捗状況	P	1
2. 事業の投資効果	P	2
3. 再評価の重点化・効率化判定票（道路・街路事業）	P	3
4. 費用対効果	P	4
5. 事業の必要性、進捗の見込み等	P	5
6. 対応方針（原案）	P	6

別冊 費用対便益算出資料〔様式集〕

1. 前回事業評価からの進捗状況及び変更点

(1) 前回事業評価から事業実施状況

年度	主な経緯
平成22、25、28年度	事業再評価（指摘事項なし、継続）

(2) 事業の進捗状況

令和2年度末、金額は税込み

	全体	執行済額	進捗率	残事業費
事業費	約340億円	約169億円	50%	約171億円
うち用地費・補償費	約169億円	約105億円	62%	約64億円

○ 用地取得、改良工事を推進中。

(3) 今後の事業展開

○ 小舟町交差点～三日市交差点間（延長4.0km）について、完成4車線開通に向けて事業を推進する。

(4) 前回事業評価からの変更点

○ 用地買収の難航および電線共同溝の協議に時間を要したため事業期間を34年間から37年間に変更



図1-1 広域図



写真1 新潟市側から緑町交差点を望む



図1-2 位置図

【構造規格】

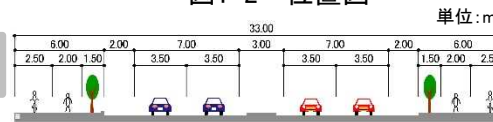
起点～島潟交差点
種級区分：第4種第1級
設計速度：60km/h

島潟交差点～終点
種級区分：第3種第1級
設計速度：80km/h

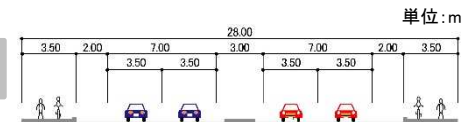
交通量出典：
平成27年度全国道路・街路交通情勢調査

【標準横断面図】

起点～島潟交差点



島潟交差点～終点



2. 事業の投資効果

事業の効果等

(1) 便益に係る整備効果

① 走行時間の短縮

- ・新発田^{しほた}拡幅の整備により、円滑な走行環境が確保され、事業区間の走行時間が約2分、渋滞損失時間が年間約105.2万人・時間の削減効果が見込まれる。

② 交通事故の減少

- ・新発田^{しほた}拡幅の整備により、渋滞緩和による死傷事故件数は年間約3件の削減が期待できる。

(2) その他の効果

① 地域産業の活性化・物流効率化

- ・事業区間周辺には工業団地等が立地しており、食品工業^{しほた}団地の分譲面積・従業員数が拡大しているなか、国道7号は物流活動における主要搬送ルートとして重要な路線であり、新発田^{しほた}拡幅の整備により、地域産業の活性化・物流効率化による生産性向上に寄与することが期待できる。

② 第三次医療施設へのアクセス向上

- ・県北地域唯一の第三次医療施設である新潟県立新発田^{しほた}病院への30分圏内カバー人口が増加するとともに、走行性向上による迅速な救急搬送に貢献する。

③ 生活道路の安全性向上

- ・交通混雑が緩和されることで、市街地へ流入する車両が国道7号へ転換することが期待されるため、歩行者の安全性確保や通学路の安全性向上が期待できる。

④ 沿道土地利用開発の促進・まちづくりの支援

- ・新発田市都市マスタープランでは新発田市街地部の国道7号沿線は沿道型商業地として位置づけられており、新発田^{しほた}拡幅の整備により、沿道商業施設の活動支援や、新発田市が進めるまちづくりに寄与する。

⑤ 主要観光施設へのアクセス向上

- ・新発田^{しほた}市観光振興基本計画（平成19年度）では国道7号を周辺都市と主要観光地間を結ぶ広域観光ネットワークに位置づけられており、新発田^{しほた}拡幅の整備により、主要観光施設へのアクセス性が向上し、地域の観光支援に寄与する。

4. 費用対効果

事業名	国道7号 新発田 ^{しばた} 拡幅						
起終点	起点：新潟県新発田 ^{しばた} 市奥山 ^{おくやましんぼ} 新保 終点：新潟県新発田 ^{しばた} 市三日 ^{みっかいち} 市					延長	5.8km
事業概要	国道7号新発田 ^{しばた} 拡幅は、「市街地部での慢性的な交通渋滞の緩和」、「沿線地域の振興、活性化」などを目的とした延長5.8kmについて、現道の拡幅を行うものである。						
平成3年度事業化	平成2年度都市計画決定			平成6年度用地着手		平成12年度工事着手	
全体事業費	約340億円	事業進捗率 (令和2年度末)	50%	供用済延長	1.8km (完成4車線)		
計画交通量	25,900~40,200 台/日						
費用対効果 分析結果	B/C		総費用	(残事業) / (全体事業)	総便益	(残事業) / (全体事業)	基準年度
	(事業全体)	1.2	170/465億円		443/576億円		令和3年度
(残事業)	2.6	事業費：	132/397億円	走行時間短縮便益：	403/531億円		
		維持管理費：	38/68億円	走行経費減少便益：	35/39億円		
				交通事故減少便益：	5.5/6.6億円		
感度分析の結果							
(事業全体)	交通量：	(-10%~+10%)	B/C=1.1~1.3	(残事業)	交通量：	(-10%~+10%)	B/C=2.3~2.8
	事業費：	(+10%~-10%)	B/C=1.2~1.3		事業費：	(+10%~-10%)	B/C=2.4~2.8
	事業期間：	(+20%~-20%)	B/C=1.2~1.3		事業期間：	(+20%~-20%)	B/C=2.6~2.7

※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価格を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。

※総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内容と一致しないことがある。

※費用対効果分析結果及び感度分析の結果の欄に係る数値は令和3年度評価時点。

※費用及び便益額は、10以上：整数止め、1.0より大きく10未満：小数点1桁止め、1.0以下：小数点2桁止めとする。

※費用対効果分析結果及び感度分析の結果は原則小数点1桁止め。ただし、四捨五入で1.0となる場合は、小数点2桁止め。

5. 事業の必要性、進捗の見込み等

事業の必要性等に関する視点

【事業を巡る社会経済情勢等の変化】

- ・ 前回事業再評価時以降、需要の見込みや地元情勢など社会情勢に大きな変化は無い。

【事業の投資効果】

- ・ 「走行時間の短縮」「交通事故の減少」「地域産業の活性化・物流効率化」「第三次医療施設へのアクセス向上」「生活道路の安全性向上」「沿道土地利用開発の促進・まちづくりの支援」「主要観光施設へのアクセス向上」などの効果が発揮される。

【事業の進捗状況】

- ・ 事業の進捗状況：用地進捗率62%、事業進捗率50%（令和2年度末）
- ・ 残事業の内容：道路設計、用地取得、改良工事、橋梁工事、舗装工事

事業の進捗の見込みの視点

- ・ 残事業区間である小舟町交差点^{こふねちょう}～三日市交差点^{みっかいち}間（延長4.0km）について、完成4車線開通に向けて事業を推進する。

コスト縮減や代替案立案等の可能性の視点

- ・ 建設発生土の有効活用や新技術の活用等により、コスト縮減を図る。

関係する地方公共団体等の意見

- ・ 地域から頂いた主な意見等：新発田市^{しばた}国県道整備促進協議会や一般国道7号道路改良促進期成同盟会から交通渋滞の緩和や、沿線地域の産業の振興活性化、高規格道路とのダブルネットワーク構築等に寄与する新発田拡幅事業の早期完成に向けた要望をいただいている。
- ・ 知事の見解：県民の安全・安心を確保し、活力のある新潟県を創るため、事業の継続を望みます。本事業は、交通渋滞の緩和や交通事故の低減につながるるとともに、地域の振興、活性化に寄与し、当県にとって重要な事業と認識しております。今後も早期完成に向けて、コスト縮減に努めつつ、着実な整備をお願いします。

6. 対応方針（原案）

事業継続

（理由）

- ・当該事業は、現時点においても、その必要性、重要性は変わっておらず、事業進捗の見込みからも、引き続き事業を継続することが妥当であると考えます。